

社会的事象の意味について考え、表現する力を育てる 小学校社会科における指導の工夫

—情報を分類・整理し、事象の特色を捉える

『つながりチャート』の作成と活用を通して—

長期研修員 高橋 弘一

《研究の概要》

本研究は、情報を分類・整理し、社会的事象の特色を捉える『つながりチャート』の作成と活用を通して、社会的事象の意味について考え、表現する力を育てることを目指したものである。

具体的には、まず、課題に対する予想をしてキーワード化することで、課題への見通しを持つ。次に、事象を比較・関連付け・総合することで、情報を分類・整理する。最後に、分類・整理したことを再構成することで、事象の特色を捉える。これらの学習活動を『つながりチャート』を作成・活用しながら実践することにより、社会的事象の意味について考え、表現することができる。

キーワード 【社会—小 社会的事象 思考力 表現力 つながりチャート】

群馬県総合教育センター

分類記号：G02-02 平成28年度 259集

I 主題設定の理由

小学校学習指導要領解説社会編では、「社会的事象の意味、意義を解釈すること、事象の特色や事象間の関連を説明すること、自分の考えを論述すること」などを改善の基本方針として挙げている。そして、改善の具体的事項には「比較・関連付け・総合しながら再構成する学習や考えたことを自分の言葉でまとめ伝え合うことによりお互いの考えを深めていく学習の充実を図ること」が求められている。

群馬県教育委員会の平成28年度学校教育の指針では、指導の重点として「児童生徒の疑問や驚きを基に、目指す児童生徒の姿につながる単元を貫く課題を設定すること」及び「資料を調べたり、見学や体験したりして分かったことを根拠に、課題に対して考えたことを自分の言葉や図などで表現すること」を位置付けている。

所属校の実態を考慮すると、児童は事象を事実として捉えることができるが、比較・関連付け・総合しながら、再構成する学習により、社会的事象の意味について考え、根拠を基に表現することが得意ではない傾向がある。

本研究に関する調査（平成28年6月実施）の結果からも、他者の意見と比べたり、関連付けたりして自分の意見を考えない児童が33%、考えたことを言葉や図で表すことが得意ではない児童が71%いることが分かった。これらのことから、社会的事象の意味について考える力や、考えたことを表現する力の育成が重要であると考えられる。

そこで、社会的事象の意味を考え、表現する力を育てるためには、事象を比較・関連付け・総合して、情報を分類・整理し、再構成しながら事象の特色を捉えていく学習が必要となる。

具体的には、まず、個人で課題に対する予想をして、調べる視点をキーワード化することで、課題に対する見通しを持つ。次に、グループでキーワードに沿って課題について調べ、情報を比較・関連付け・総合することで、情報を『つながりチャート』に分類・整理する。その際、共通の見方や考え方ができるようにしたり、視覚的に捉えやすくするために矢印などの記号を活用したりする。最後に、『つながりチャート』を活用して分類・整理したことを、相互交流によって再構成することで、事象の特色を捉え、その価値を判断し、自分のこととして考えることができるようにする。

このような学習を通して社会的事象の意味について考え、表現する力を育てることができると考え、本主題を設定した。

II 研究のねらい

小学校社会科において、社会的事象の意味について考え、表現する力を育てるために、情報を分類・整理し、事象の特色を捉える『つながりチャート』を作成し活用することの有効性を明らかにする。

III 研究仮説（見通し）

1 課題に対する予想をし、キーワード化して見通しを持つ

つかむ過程において、課題に対する予想をして、キーワード化することで、『つながりチャート』の視点を明確化し、課題に対する見通しを持つことができるであろう。

2 事象を比較・関連付け・総合して、分類・整理する

追究する過程において、事象を比較・関連付け・総合することで、情報を『つながりチャート』に分類・整理することができるであろう。

3 社会的事象の意味について考え、表現する

考え・まとめる過程において、『つながりチャート』を活用し、分類・整理したことを再構成することで、事象の特色を捉えることができ、社会的事象の意味について考え、表現することができるであろう。

IV 研究の内容

1 基本的な考え方

(1) 社会的事象の意味について考え、表現する力とは

小学校学習指導要領解説社会編では、「社会的事象の意味について考える力」とは「我が国の農業や水産業などの食料生産に関わる産業、工業生産に関わる産業、情報産業が国民生活の維持と向上に役立っていることを考える力」であり、「調べたことや考えたことを表現する力」とは「社会的事象を具体的に調査したり、地図や地球儀、統計などの各種の基礎的資料を効果的に活用したりして調べたことや社会的事象の意味について考えたことを表現する力」であるとしている。

これを受けて、本研究では社会的事象の意味について考え、表現する力を以下のように捉えた。

① 社会的事象の意味について考える力とは

事象を事実として捉えるだけでなく、『つながりチャート』を作成しながら、事象には、産業に携わっている人々の様々な努力や工夫があることや、それが「国民生活の維持や向上に役立っている」ということを考えるとともに、その価値を判断し、自分のこととして考える力である。

② 調べたことや考えたことを表現する力とは









追究する過程において、事象を比較・関連付け・総合しながら『つながりチャート』に分類・整理したことを基に『つながりチャート』を再構成して表現する力である。また、考え・まとめる過程において、『つながりチャート』を活用して、調べたことや考えたことや自分にできることを根拠を基に自分の言葉で表現する力である。

(2) 情報を分類・整理するための『つながりチャート』とは

情報を分類・整理するための『つながりチャート』とは事象を比較・関連付け・総合して、分類・整理するものである。まず、付箋に、キーワード、それに関連する事象などを短い言葉で表す。それを模造紙に貼り、線や矢印など

を使って比較したり、関連付けたりしながらまとめ、分類・整理する。その際、表1「つながりチャートのルール」（以下『つながりルール』）を基にして作成していく。これは社会科の学習で必要な、事象を捉える際の視点であり、統一したルールで用いることによって、どの児童も共通した見方、考え方ができるという上で有効であると考え。また、児童の実態を踏まえ、記号は分かりやすく、多すぎないようにし、意味も簡単で考えやすいよう配慮した。

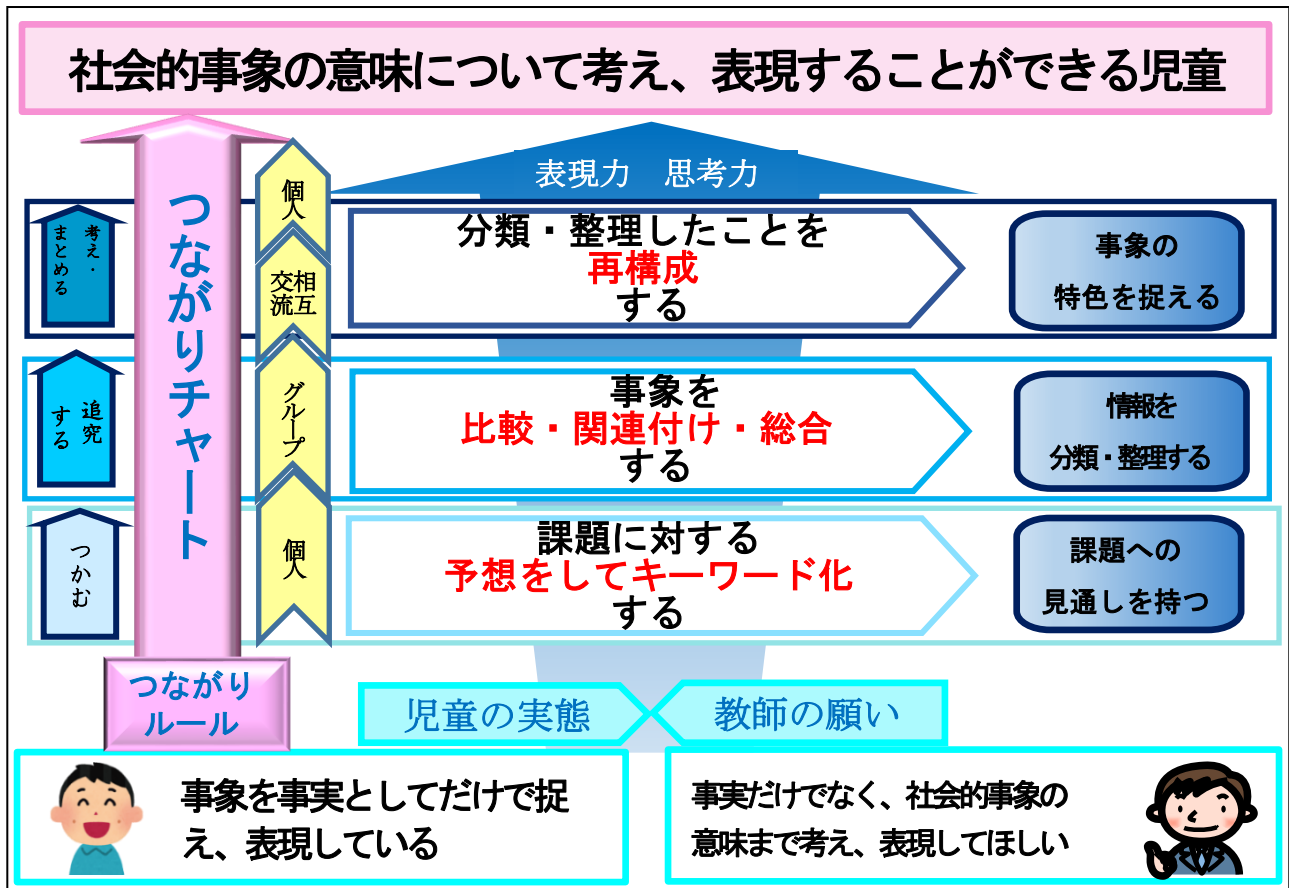
表1 つながりチャートのルール（『つながりルール』）

見方・考え方	記号	記号の意味	児童への支援
比較		相反するもの	反対 違うこと
関連付け①		関連があるもの	似ている 関係がある
関連付け②		段階を経るものや変化するもの	変わるもの 相手
総合①		効果的なこと、今後も続けていきたいこと	良いこと
総合②		改善した方が良いこと	良くないこと
再構成		交流会後、新たな気づきを再構成する	『つながりチャート』につなげよう
表現①		つなげた根拠や、思ったことを異なる色や形の付箋に書く。	分かったことや気が付いたことを付箋に書こう
表現②		まとめを色の異なる付箋に書き『つながりチャート』に貼る。	授業の最後に「まとめ」を書こう

(3) 事象の特色を捉えるための『つながりチャート』とは

事象の特色を捉えるための『つながりチャート』とは事象を比較・関連付け・総合して分類・整理した後、再構成していくものである。その際、つながりの根拠を色や形の異なる付箋に書くことで、事象の特色を捉えられるようにする。また、単元を通して調べてきたことを、全体的に捉えることができたり、事象相互の関係を比較・関連付け・総合して捉えることができたりする。これらのことを通して、児童は、産業に携わる人々の工夫や努力が生活を向上させているという考えを持つとともに、その価値を判断し、自分のこととして考えることができる。

3 研究構想図



V 実践の計画と方法

1 第1回目授業実践

(1) 実践の概要

対象	研究協力校 小学校第5学年 37名
実施期間	平成28年6月28日～平成28年7月15日 9時間
単元名	「米づくりのさかんな地域」
単元の目標	米づくりに関心を持ち、生産の様子や人々の工夫や努力、消費者のもとに届く様子などを調べ、より良い米づくりとは何かという観点で考えることを通して、米づくりが国民生活に重要な役割を果たしていることを理解できるようにする。

(2) 第1回目の授業実践の結果と考察

① 結果

まず、課題を予想し、キーワード化していった。児童の予想を聞きながら、表2のように、課題を設定する際に提示した庄内平野の写真や地形図から、平地の広さや川に気付き「自然条件」というキーワードに結び付けることができた。児童の予想として三つの視点「自然条件」「人々の工夫・努力」「輸送の工夫」を想定していたが「輸送の工夫」に関する予想はなかった。同じキーワードの児童四名でグループを作り、学習を進めていくことを伝えると教科書を広げて「ここじゃない？」と何を調べるか話し合う姿が見られ、見通しを持って学習に取り組もうとする様子が見られた。

表2 予想をキーワード化する場面の様子

T	: 予想が書けた人、教えてください。
S1	: 土地が広くて平らだから。
T	: (写真を示しながら) そうだね、これは田んぼかな。同じだった人？
S2	: 川が多い。
T	: 同じ人？なんていう川がある？
S3	: 赤川と…。
S4	: 日向川と最上川もある。
S5	: 土地と川って両方「自然」じゃないかな？
T	: 本当だ。「自然」に関係することを書いた人いる？「自然」以外の人もあるかな？

次に、調べたことを付箋に書き、図1のように『つながりチャート』に分類・整理した。毎時間、付箋を『つながりチャート』に分類・整理し、それを模造紙に貼って、学習するごとに増えていく形とした。この結果、『つながりチャート』作成を通して、調べたことを比較・関連付け・総合しながら分類・整理し、つながりを意識して事象を捉えることができた。また、『つながりルール』にはなかったが、仲間ごとに集めてまとまりを作っているグループも見られた。

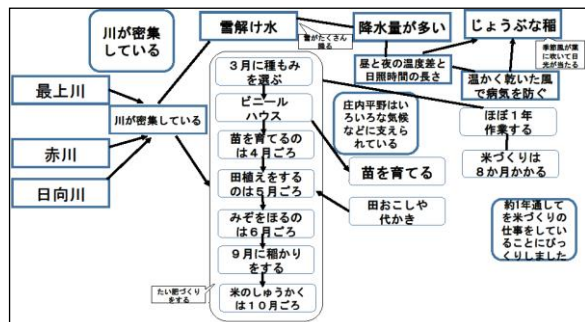


図1 児童が作成した『つながりチャート』

最後に、『つながりチャート』を再構成し、まとめを行った。交流会を通して、自分が調べたこととは異なる問題や取組、考えなどの新たな気づきを付箋に書くことができた。交流会後、図2のように、その付箋を基にして自分たちの『つながりチャート』を再構成した。グループによる差が見られたが、自分たちが作成してきた『つながりチャート』に新たな気づきを取り入れることができた。

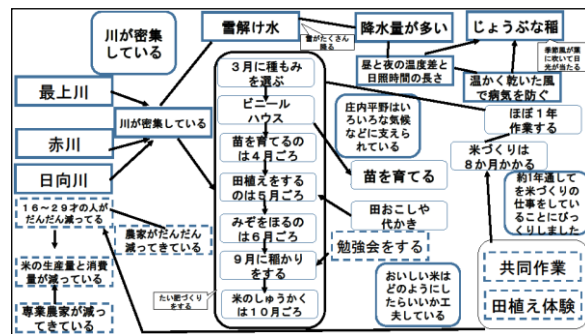


図2 児童が再構成した『つながりチャート』

表3 再構成後の児童のまとめの記述

○農家の人はJAの人と協力しながら米づくりをしている。季節風など自然が合っている。消費量が減っているから、米は伝統的で、美味しいことを日本中に知らせる。

表4 どうすれば良いかを考えて記述した児童の記述

○川や気候、日光などが米作りに適しているだけでなく、その地域の協力やJAの協力により、より良い米作りが出来るので米作りがさかん。

そして、表3のように再構成した『つながりチャート』を活用して米づくりに関わる人々が協力していることや工夫、努力していることを考え、表現することができた。さらに、農家の問題を資料から読み取った後に『つながりチャート』を活用しながら、意見交流することで農家には様々な問題があることが分かり、自分がどうすれば良いかを考えて、表4のように表現することができた。

② 考察

つかむ過程では、予想をキーワード化することで、何を調べれば良いかが分かり、課題や学習に対する見通しを持つことができたと考える。教師の想定では予想が三つの視点「自然条件」「人々の工夫・努力」「輸送の工夫」になると考えていたが、「自然条件」「農家の人」の二つであった。児童に提示する資料が多く、ねらいが定まらなくなったためであると考えられる。このことから、資料を精選することが課題である。なお、「輸送の工夫」については「農家の人」のグループに「農家以外の人々の工夫はないか」と投げかけた結果、調べることができ、交流会を通して、全体に共有することができた。

追究する過程では、『つながりルール』を児童一人一人に配付し、付箋を『つながりチャート』に分類・整理する際、参考にするよう指示したことが有効であった。さらに、可視化したことにより、学習してきた過程や全体像を見ることができた。前に調べたこととのつながりを捉えやすく、思考が継続する効果が見られた。より有効な手立てとするために、『つながりチャート』を模造紙半分程度の大きさの方が、事象を比較・関連付け・総合して分類・整理しやすいと感じるとともに、この活動は時間がかかることが分かった。このことから、時間を十分確保し、指導計画を工夫する必要がある。

考え・まとめる過程では、交流会を通して新たな気づきを付箋に書くことができた。これは、いろいろなグループの発表を聞く形態にした結果、多様な気づきを得ることができたためだと考えられる。しかし、発表を聞いて、そのまま付箋に書いたため、児童がしっかりと考えていないと捉えられる。聞いたことをメモにとるなどして、よく考えてから付箋に書くなどの工夫が必要である。その後のまとめる場面では、課題に立ち返って新しい気づきについて考えることができ、再構成することができた。課題を振り返り、何について答えを求めているのか確認する機会を適宜設けて学習できるよう配慮が必要である。なお、交流会後のまとめの文章は新たな気づきを取り入れた課題の答えを記述できた児童が多か

った。一方、自分たちの調べてきたことに固執する児童も見られた。『つながりチャート』を再構成する時間を確保し、新たな気付きを取り入れた『つながりチャート』から課題に迫れるようにする必要がある。また、記述の仕方を示すなどの工夫をすることも考えられる。

以上のように、『つながりチャート』を活用して事象の特色を捉えることができた。単元全体を見通しながら、『つながりチャート』を作成・活用することにより、さらに充実した活動につながると考える。

2 第2回授業実践

(1) 実践の概要

対象	研究協力校 小学校第5学年 37名
実施期間	平成28年10月3日～平成28年10月12日 6時間
単元名	「これからの食料生産とわたしたち」
単元の目標	我が国の食料生産には、自給率の低下や安全性など様々な問題があることを理解し、これからの我が国の食料生産について考えようとしている。

(2) 検証計画

検証項目	検証の観点	検証方法
見通し1	つかむ過程において、課題に対する予想をして、キーワード化することで、『つながりチャート』の視点を明確化し、課題に対する見通しを持つことができるであろう。	ワークシート 活動の状況 チャート作成の様子(グループ活動) まとめの記述 記録用画像など
見通し2	追究する過程において、事象を比較・関連付け・総合することで、情報を『つながりチャート』に分類・整理することができるであろう。	
見通し3	考え・まとめる過程において『つながりチャート』を活用し、分類・整理したことを再構成することで、事象の特色を捉えることができ、社会的事象の意味について考え、表現することができるであろう。	

(3) 抽出児童

抽出児A	事象について資料から読み取ることができ、比較・関連付けるなどしてつながりを考えることができる。また、新たな気付きを取り入れながら社会的事象の意味について考え、自分の言葉で表現できるが、解決策を考えるまでには至らない。解決策を考えることができるように、自分の問題として捉えられるよう支援したい。
抽出児B	事象について資料から読み取ることができ、比較・関連付けるなどしてつながりを考えることができる。しかし、新たな気付きを取り入れることが苦手である。自分の考えたことを自分の言葉で表現できる。異なる考えを取り入れられるよう『つながりチャート』を再構成する際に支援したい。
抽出児C	個々の事象について資料などから読み取ることができ、事象相互のつながりについて考えることは得意ではなく、自分の言葉で社会的事象の意味について表現することは難しい。『つながりチャート』作成時に、つながりを考えられるよう支援したい。

(4) 評価規準

社会的事象への 関心・意欲・態度	社会的な 思考・判断・表現	観察・資料活用の技能	社会的事象についての 知識・理解
自分の生活と食料生産との関わりを基に、我が国の食料生産の現状と未来について関心を持ち、我が国の食料生産の発展について考えようとしている。	我が国の食料生産の問題について、環境への影響、輸入食材の安全性、生産者と消費者などの観点を基に、社会的事象の意味について考えたことを適切に表現している。 我が国の食料生産をめぐる問題について、学習課題や予想、学習計画を考え表現している。	我が国の食料生産の問題点について、統計などの各種の資料を活用して必要な情報を集めて読み取り、図や文章にまとめている。	我が国の食料生産は国民生活を支えていることや、これからの食料生産には、就業者の減少、食品の安全性、環境保全、自給と輸入の関係、生産者と消費者のつながりなど、様々な課題があることを理解している。

(5) 指導計画(学習活動と研究上の手立て)(全6時間予定)

過程	時間	学習活動	研究上の手立て
つかむ	1	○食料生産の問題に関心を持ち、課題に対する予想をする。	<p>資料などから課題を考え、課題の答えを予想する。予想をキーワード化し、見通しを持つ。</p> <p>日本の食料生産にはどんな問題があり、これからの食料生産はどうしていったら良いだろうか。</p> <p>自給率が低いから、農家はもっと食料を作れば良い</p> <p>外国からの輸入が多いから日本の食べ物を食べよう</p> <p>生産者 キーワード 消費者</p>

2 3	○キーワードを基にしなが課題について調べ、分かったことを付箋に書く。	<p>調べたことを付箋に書く。※違う時間に調べたことは付箋の色を変える。</p>
	○調べて分かったことを『つながりチャート』に分類・整理する。	<p>付箋を模造紙に貼り、事象を比較・関連付け・総合して、分類・整理する。</p>
4		
5	○交流会を行い、新たな気づきを付箋に表す。	<p>相互交流を通して気付いた新たな食料生産の問題を異なる色の付箋に書く。</p>
	○『つながりチャート』を再構成し、社会的事象の特色を捉え、意味について考える。	<p>食料問題についての新たな気づきを取り入れ『つながりチャート』を再構成する。</p>
6		
考え・まとめる	再構成した児童の姿	
	社会的事象の特色を捉えた児童の姿	
	社会的事象の意味を考え、表現した児童の姿	<p>食料自給率が少ない 農家が減った 安全な食料 地産地消</p>
		<p>日本は自給率が低いことが問題です。生産者は安全でおいしい食べ物を作って、消費者に食べてもらう。消費者も地産地消を進める。だから、私も地元のものを食べるようにします。</p>

VI 実践の結果と考察

1 つかむ過程において、課題に対する予想をして・キーワード化することで、『つながりチャート』の視点を明確化し、課題に対する見通しを持つことができたか。

(1) 結果

第1時 めあて 「食料生産について課題を持ち、課題の答えを予想しよう」

まず、既習事項の振り返りでは、「米づくりのさかんな地域」「水産業のさかんな地域」の学習で生産者の様々な工夫や努力のおかげで、消費者が食料を得ることができることを確認した。また、児童が食料生産の問題を捉え、自分自身の問題として考えられるような資料を提示した。具体的にはグラフ「国別食料自給率の変化」「食料別食料自給率の変化」及び、写真「校区のスーパーの食料品売り場」、新聞記事「産地偽装、消費期限切れ問題」である。さらに、「毎日食べる食料のことだから大切なことだね」と投げかけた。これらによって、自分たちも困るという意識を持つことができ、課題を設定し、予想することができた。なお、抽出児Aは「作る人が使用期限切れのものや、落ちたものを使わない」、抽出児Bは「生産者を増やすと良い」、抽出児Cは「何かついていないか、食べ物をよく見て買う」と予想した。

次に、予想をキーワード化する場面では、表5のように、教師が児童の予想に対して「それは誰のことですか」などと問いかけながら聞き、「生産者」と「消費者」に分類して板書することで、「生産者」「消費者」とキーワード化することができた。

最後に、児童が課題に対する見通しを持てるように第1回実践で作成した『つながりチャート』を学習モデルとして提示した結果、予想をキーワード化し、課題に対する見通しを持つと同時に、活動の見通しを持つことができた。

表5 予想をキーワード化していく場面の様子

T	: 予想を書いた人は教えてください。
S1	: 日本の食べ物の生産量を増やす。
T	: もっとたくさん作るということですか？
S1	: そうです。自給率が低いからです。
T	: 同じ人はいますか？ 他にありますか？
S2	: 後継者がいると良いと思います。
T	: 後継者がいると作る人が減らないね。農業や水産業の人が増えるかな？
S2	: はい。
S3	: 外国のものを買わない。
S4	: 日本のものの特徴を覚えて、買う。
S5	: よく見て気を付けて買う。
T	: なるほど。それは誰のことですか？
S6	: 買う人、消費者です。
T	: じゃあ、こっちはどうかな？
S7	: 作る人、生産者です。
T	: 生産者と消費者に分けられたね。では、これをキーワードにして調べていこう。

(2) 考察

教師が「消費者」「生産者」というキーワードにつながる資料を提示したことや、「食料が生活にとって大切である」という投げかけをしたことにより、食料生産の問題に関心を持ち、身近な問題として捉えることができた。そして、食料問題を解決していかななくては困るという考えにつながり、課題を設定し、予想する際の手がかりとなった。また、予想を書く際、「誰がすることかな」と問いかけることでキーワードにつなげることができた。

予想をキーワード化していく場面では、児童の予想を分類して板書することで、「生産者」「消費者」というキーワードに気付くことができるように工夫した。その結果、予想をキーワード化することができ、視点が明確になり、課題に対する見通しを持つことができたと考える。なお、課題の答えを予想することが苦手な児童にとっても、予想を出し合い、キーワード化することは課題に対する見通しを持つ上で有効となった。終末の場面で、どのように学習を進めていくのかが分かるように第1回実践で作成した『つながりチャート』を学習モデルとして提示し、学習活動への見通しも持つことができた。

以上のことから、課題に対する予想をして、キーワード化することで、『つながりチャート』の視点を明確化し、課題に対する見通しを持つことに有効であったと考える。

2 追究する過程において、事象を比較・関連付け・総合することで、情報を『つながりチャート』に分類・整理することができたか。

(1) 結果

第2時・第3時 めあて「食料生産の問題をキーワードを基に調べ、食料生産の問題や、解決していくために大事なことを付せんに書こう」

まず、前時に予想をキーワード化したことを振り返った後、自分のキーワードを確認した。なお、児童

が確認しやすいように、事前に教師が児童の予想を見て「生産者」か「消費者」どちらになるかをワークシートに書き込んでおいた。

次に、キーワードに基づいて調べる活動では、児童が調べやすいように教科書と資料集を使用し、大まかなページを知らせた。前時の予想から自分の調べる視点が明確化していたため、どの児童も「生産者」「消費者」のキーワードを探しながら調べることができた。「生産者」か「消費者」かが分かりにくい内容はキーワードを探したり、資料の説明の文末（「作る」「選ぶ」など）に注意し「生産者」か「消費者」かを考えたりするよう助言した。これらにより、視点に合った、必要な情報を集めることができた。

最後に、調べたことの中から、問題や解決のための取組、考えなどを付箋に書く活動を行った。付箋に書くだけでなく、なぜ大事なのかという根拠も考えられるようワークシートを工夫したことで、根拠を基にキーワードに合った、必要な情報をまとめることができた。なお、根拠を明らかにしながら付箋に書くことで必要な情報を集められるよう付箋は5枚までに制限し、その分、根拠をしっかりと考えるよう投げかけた。

これからこの食料生産とわたしたち ワークシート2	
5年 組 名前【 1	
<p>[学習課題] 日本の食料生産にはどんな問題があり、 これからの食料生産はどうしていったらよいだろうか</p> <p>[学習課題] 食料生産の問題をキーワードをもとに調べ、 食料生産の問題や、解決していくために大事な 事柄を付せんにかこう。</p>	
<p>調べて分かったこと</p> <p>日本の自給率は下がってきている。外国から輸入している。</p> <p>小麦や大豆は特に輸入が多い。</p> <p>日本の自給率が低いのは問題。</p> <p>外国の食料のほうが国内産より安い。アメリカは国土が広く、</p> <p>農業の機械化が進んでいるから大量に作るができる。働</p> <p>く人の賃金が低い中国は、日本より安く作るができる。</p> <p>農業、林業、水産業で働く人が減り、耕地面積も減ってきて</p> <p>いる。</p>	
<p>調べて分かったこと</p> <p>ほかの国では土地が広く農業の機械化が進んでいる</p> <p>国内の生産ががりりと減っている</p> <p>耕地面積が減ってきている</p> <p>日本の自給率が少ない</p>	<p>理由など</p> <p>なぜなら、 土地が広く大量に作れるから 安い。</p> <p>なぜなら、 人が減ってきている。</p> <p>なぜなら、 人が減ってきている。</p> <p>なぜなら、 作ることが少なく、いろいろなものを作る ことが大変で、いっぱい作れない</p> <p>なぜなら、</p>
<p>まとめ</p> <p>日本は自給率が低く、輸入が多い。</p> <p>農家が減っていて、生産量が少ない。</p>	

図3 児童のワークシート

その結果、ワークシートに根拠を書くことができ、まとめでは食料生産の問題や取組について書くことができた。図3は児童のワークシート、表6は抽出児の第2時、第3時のワークシートの記述である。

表6 抽出児の第2時及び第3時のワークシートの記述

	調べたこと	付箋に書いたこと	
		□	○
抽出児A	<p>生産者</p> <ul style="list-style-type: none"> 食料自給率が低い。 輸入された食料は国内の生産を補っている。 環境にやさしい食料を作る農家が増えている。 農業、水産業で働く人が減っている。 	<p>日本の食べ物が少ない</p> <p>農業、漁業が減って自給率が低くなっている</p> <p>自給率を上げるには地元の食料をたくさん作る</p>	<p>外国の食べ物が多い</p> <p>食材を輸入できなくなった時のことも考える</p>
		<p>○生産者は環境を大切にしている。外国のものを輸入してばかりでいろいろな問題がある。</p> <p>○日本は、外国のものが安いからって、たくさん買いすぎている。</p>	
抽出児B	<p>生産者</p> <ul style="list-style-type: none"> 国内生産が減っている。 トレーサビリティ。 日本の食料生産とTPP。 食料の輸入。 	<p>国内生産が減っている</p> <p>TPP</p>	<p>食料の輸入</p> <p>トレーサビリティ</p>
		<p>○日本は国内生産が減っている。</p> <p>○日本は国内生産が減っているのに、食料を輸入している。</p>	
抽出児C	<p>消費者</p> <ul style="list-style-type: none"> ぼくたちも食に関心を持つことが大事。 	<p>食に関心を持つ</p>	<p>安全な食料を選ぶ</p>
		<p>○ぼくたちが食べる食べものをちゃんと見て選んだ方がよい。</p> <p>○いろいろなことを調べてもっともっとがんばる。</p>	

第4時 めあて「食料生産の問題を『つながりチャート』に分類・整理しよう」

まず、第1回実践の『つながりチャート』を学習モデルとして提示しながら『つながりルール』を説明するとともに、児童一人一人に『つながりルール』を縮小したものを配付した。このことにより、比較・関連付け、総合しながら分類・整理する際の参考にすることができた。

次に、2・3時間目に書いた付箋を使い、模造紙に分類・整理していった。具体的には、『つながりルール』を参考にしながら「自給率が低いから農家の人が少ないんだよね」「だから矢印で結ぼう」「それから、農家の人が少ないと生産量が少ないし、外国産のものが多く売られていると外国のものを買うよね」などと話しながら分類・整理することができた。

最後に、分類・整理しながら根拠を色・大きさの異なる色の付箋に書き、『つながりチャート』に分類・整理する活動を行った。前時のワークシートに書いた理由を参考にし、友達の考えを聞いて、根拠を考えたり、総合したりしながら分類・整理することにつながった。具体的には、「生産者の顔や名前が分かるから、安心して安全な食べ物を食べられる」など比較・関連付けて、根拠を書くことができた。

児童が作成した『つながりチャート』(11頁図4①)や、表7の抽出児の『つながりチャート』に作成した後に書いた答えの記述から、事象相互の関係を、根拠を基に考え、情報を分類・整理したことが分かる。そして『つながりチャート』を活用して、解決策を考え、自分のこととして表現することができたことが分かる。なお、事象のつながりを考えることが苦手な抽出児Cには、友達が付箋に書いた内容に似ているものを見付けるなど、『つながりルール』を参考にしながら分類・整理するよう助言することで、事象のつながりを考えることができた。

表7 抽出児が『つながりチャート』に分類・整理した後に書いた解決策

抽出児A	日本は外国のものばかり食べているから食料自給率が低くなっている。だから、日本でたくさん食べ物を作ったり、食べたりすれば、自給率が高くなる。
抽出児B	もっと日本の食料生産を増やす。
抽出児C	国内の食料生産が減っているけど、これから生産者を増やしたり、国内産の食料をたくさん食べる。

(2) 考察

調べる活動と付箋に書く活動を分けたことで、付箋に書く際に自分の調べたことをまとめ、要約して自分なりに考えることができた。また、付箋に書く際に、なぜそれが大事だと思ったのかという根拠を考え、書いたことで、根拠に基づいた、課題に対して必要な情報を集めることができた。

グループで話し合いながら、『つながりルール』を参考にしながら考えたことにより、情報を比較・関連付け・総合することで、情報を分類・整理することができた。なお、『つながりルール』に基づいて、話し合うことを通して、仲間分けなどの独自の方法を取り入れるグループもあった。事前の体験、第1回目の実践、教室掲示なども情報を分類・整理するのに有効であったと考える。これらにより、個々の事象がつながりのあるものとして捉えられるような『つながりチャート』ができた。そして、前時のワークシートに書いた、付箋の言葉が大事だという根拠も参考にしながら、色・形の異なる付箋につないだ根拠や記号を用いた根拠を表現し総合することができた。

表8は実践後に行った『つながりチャート』に関する調査の結果である。『つながりチャート』を活用した学習は95%以上の児童が「よくできた」「だいたいできた」と回答し、調べたことを分類・整理することに関する項目ではほとんどの児童が「よくできた」「だいたいできた」と回答している。児童が実際に作成した『つながりチャート』からだけでなく、キーワードに基づいて調べたことを、比較・関連付け・総合することを通して『つながりチャート』に分類・整理することができたと児童が実感していることが分かる。

以上のことから、事象を比較・関連付け・総合することは、情報を『つながりチャート』に分類・整理することに有効であると考えられる。

3 考え・まとめる過程において『つながりチャート』を活用し、再構成することで、事象の特色を捉えることができ、社会的事象の意味について考え、表現することができたか。

(1) 結果

第5時 めあて「交流会をして、食料生産の新しい問題を知ろう」

表8 『つながりチャート』に関する調査の結果

(1) 『つながりチャート』を使う学習は、使わない学習に比べて、よくできましたか			
よくできた	だいたいできた	あまりできなかった	できなかった
56.5%	38.2%	5.2%	0.0%
(2) 『つながりチャート』を作ることで、調べたことが整理できましたか			
よくできた	だいたいできた	あまりできなかった	できなかった
57.9%	40.8%	1.3%	0.0%

表9 抽出児の本時のワークシート（付箋）の記述及び、本時のまとめの記述

	抽出児A	抽出児B	抽出児C																																				
ワークシート（付箋の記述）	<p>調べたことをもとに、大事だと思うことを付箋に書いてはろう！ 理由も書こう！！</p> <table border="1"> <tr> <th>付せんをはるところ</th> <th>理由など</th> </tr> <tr> <td>輸入が多い国1位は日本</td> <td>なぜなら、日本は輸入しすぎだから。</td> </tr> <tr> <td>生産者を増やす</td> <td>なぜなら、日本は自給率が低いから、生産者を増やしたほうがいいと思うから。</td> </tr> <tr> <td>国内のものをたくさん食べる</td> <td>なぜなら、自給率を増やしたほうがいいから。</td> </tr> <tr> <td>地産地消をする</td> <td>なぜなら、自給率を上げたほうがいいから。</td> </tr> <tr> <td>食料生産が減ると自給率も低くなる</td> <td>なぜなら、食料生産が減ると、自給率が低くなるのは問題だから。</td> </tr> </table>	付せんをはるところ	理由など	輸入が多い国1位は日本	なぜなら、日本は輸入しすぎだから。	生産者を増やす	なぜなら、日本は自給率が低いから、生産者を増やしたほうがいいと思うから。	国内のものをたくさん食べる	なぜなら、自給率を増やしたほうがいいから。	地産地消をする	なぜなら、自給率を上げたほうがいいから。	食料生産が減ると自給率も低くなる	なぜなら、食料生産が減ると、自給率が低くなるのは問題だから。	<p>調べたことをもとに、大事だと思うことを付箋に書いてはろう！ 理由も書こう！！</p> <table border="1"> <tr> <th>付せんをはるところ</th> <th>理由など</th> </tr> <tr> <td>中国からの輸入が半分以上</td> <td>なぜなら、日本は食料生産が減っているから。</td> </tr> <tr> <td>牛などの育てられたところが分かる</td> <td>なぜなら、消費者に安心して買ってもらえる。</td> </tr> <tr> <td></td> <td>なぜなら、</td> </tr> <tr> <td></td> <td>なぜなら、</td> </tr> <tr> <td></td> <td>なぜなら、</td> </tr> </table>	付せんをはるところ	理由など	中国からの輸入が半分以上	なぜなら、日本は食料生産が減っているから。	牛などの育てられたところが分かる	なぜなら、消費者に安心して買ってもらえる。		なぜなら、		なぜなら、		なぜなら、	<p>調べたことをもとに、大事だと思うことを付箋に書いてはろう！ 理由も書こう！！</p> <table border="1"> <tr> <th>付せんをはるところ</th> <th>理由など</th> </tr> <tr> <td>国内の生産がどんどん減っている</td> <td>なぜなら、農家の人たちがどんどんいなくなっているから。</td> </tr> <tr> <td>日本の食べ物をたくさん作る</td> <td>なぜなら、自給率が減ってきているから、農家の人をたくさん増やして日本の食べ物をたくさん作る。</td> </tr> <tr> <td></td> <td>なぜなら、</td> </tr> <tr> <td></td> <td>なぜなら、</td> </tr> <tr> <td></td> <td>なぜなら、</td> </tr> </table>	付せんをはるところ	理由など	国内の生産がどんどん減っている	なぜなら、農家の人たちがどんどんいなくなっているから。	日本の食べ物をたくさん作る	なぜなら、自給率が減ってきているから、農家の人をたくさん増やして日本の食べ物をたくさん作る。		なぜなら、		なぜなら、		なぜなら、
	付せんをはるところ	理由など																																					
輸入が多い国1位は日本	なぜなら、日本は輸入しすぎだから。																																						
生産者を増やす	なぜなら、日本は自給率が低いから、生産者を増やしたほうがいいと思うから。																																						
国内のものをたくさん食べる	なぜなら、自給率を増やしたほうがいいから。																																						
地産地消をする	なぜなら、自給率を上げたほうがいいから。																																						
食料生産が減ると自給率も低くなる	なぜなら、食料生産が減ると、自給率が低くなるのは問題だから。																																						
付せんをはるところ	理由など																																						
中国からの輸入が半分以上	なぜなら、日本は食料生産が減っているから。																																						
牛などの育てられたところが分かる	なぜなら、消費者に安心して買ってもらえる。																																						
	なぜなら、																																						
	なぜなら、																																						
	なぜなら、																																						
付せんをはるところ	理由など																																						
国内の生産がどんどん減っている	なぜなら、農家の人たちがどんどんいなくなっているから。																																						
日本の食べ物をたくさん作る	なぜなら、自給率が減ってきているから、農家の人をたくさん増やして日本の食べ物をたくさん作る。																																						
	なぜなら、																																						
	なぜなら、																																						
	なぜなら、																																						
まとめ	消費者は生産者の作る量を増やしたり、生産者を増やすということを考えることが分かった。	中国から半分以上輸入しているから、国内生産を増やしたら良い。	生産者は農家の人が少なくなっていくから、それをどうやって解決するか考えていることが分かった。																																				

まず、交流会の方法を説明した後、キーワードを基にして調べたことを『つながりチャート』を活用して発表し合い、異なるキーワードから新しい問題を知ろうというめあてを意識付けた。

『つながりチャート』を見せながら、生産者、消費者それぞれの立場からの問題やその解決のための取組、考えなどを付箋や記号を示しながら発表することができた。

次に、発表を聞きながら書いたメモを基に、異なる視点から見た食料生産の新しい問題などを付箋に書いた。表9は抽出児のワークシートの付箋部分である。抽出児Bは8頁表6の記述のように、生産者の立場にこだわっていたが、交流会を通じて、表9の記述のように生産者の工夫が消費者の安全につながることを知り、異なる立場から食料問題を捉えることができたことが分かる。他の児童も「食料の多くを輸入に頼っている」「日本の自給率が低い」「農業で働く人が減っている」などと記述しており、交流会を通して、食料生産の問題を異なる立場から捉え、付箋に書くことができた。

第6時 めあて「『つながりチャート』を完成し、食料生産の問題をどうすれば良いか考えよう」

まず、異なる視点から得た新たな食料生産の問題などを書いた付箋を、自分たちの『つながりチャート』に取り入れ、再構成する活動を行った。第1回目の実践の課題を踏まえ、個々の付箋を操作しながらつながりを考えたため、事象相互のつながりを考えやすくなり、多くのグループが話し合いながら再構成することができた。戸惑っているグループには、付箋を示しながら「これと似ているのはどれかな」など問いかけや助言をすることで、きっかけを作り、活動することができた。その際、『つながりルール』をヒントに、記号を基にしながらか『つながりチャート』を再構成する姿が見られた。

次に、事象をつないだ根拠を、ワークシートを参考にしたり、話し合ったりして考えることができた。また、単元を貫く学習課題を意識できるよう「生産者はどうしていったら良い？」など問いかけることで、課題を意識しながら活動することができた。児童が書いた根拠には「安全な食べ物を作れば、消費者が喜ぶ」「生産者の顔や産地が分かるようにすると安心だから」「農薬を使わなければ安心。そうすれば消費者も喜び、たくさん売れる」など、課題に対する答えを意識した記述が見られた。

このように、前時に知った、異なるキーワードから得た新たな気づきを、『つながりチャート』に再構成することで、食料生産の問題や解決するための取組などを考え、社会的事象の特色を捉えることができた。次頁図4は児童が作成した『つながりチャート』である。

最後に、再構成した『つながりチャート』を活用して、まとめる活動を行った。ワークシートに「これからの日本の食料生産は○○思います。だからわたしは□□」と、まとめ方の型を示した。○○には、問題の解決策を、生産者と消費者の両方の立場から書き、□□には、問題を解決するために自分ができることを書くように指示した。型を示すことで、どのようにまとめれば良いかが分かり、両方の立場が

ら食料生産をどうしていったら良いか考えることができた。このように、自分のこととして考えることにより社会的事象の意味について考え、表現することができた。表 10 は抽出児の記述である。

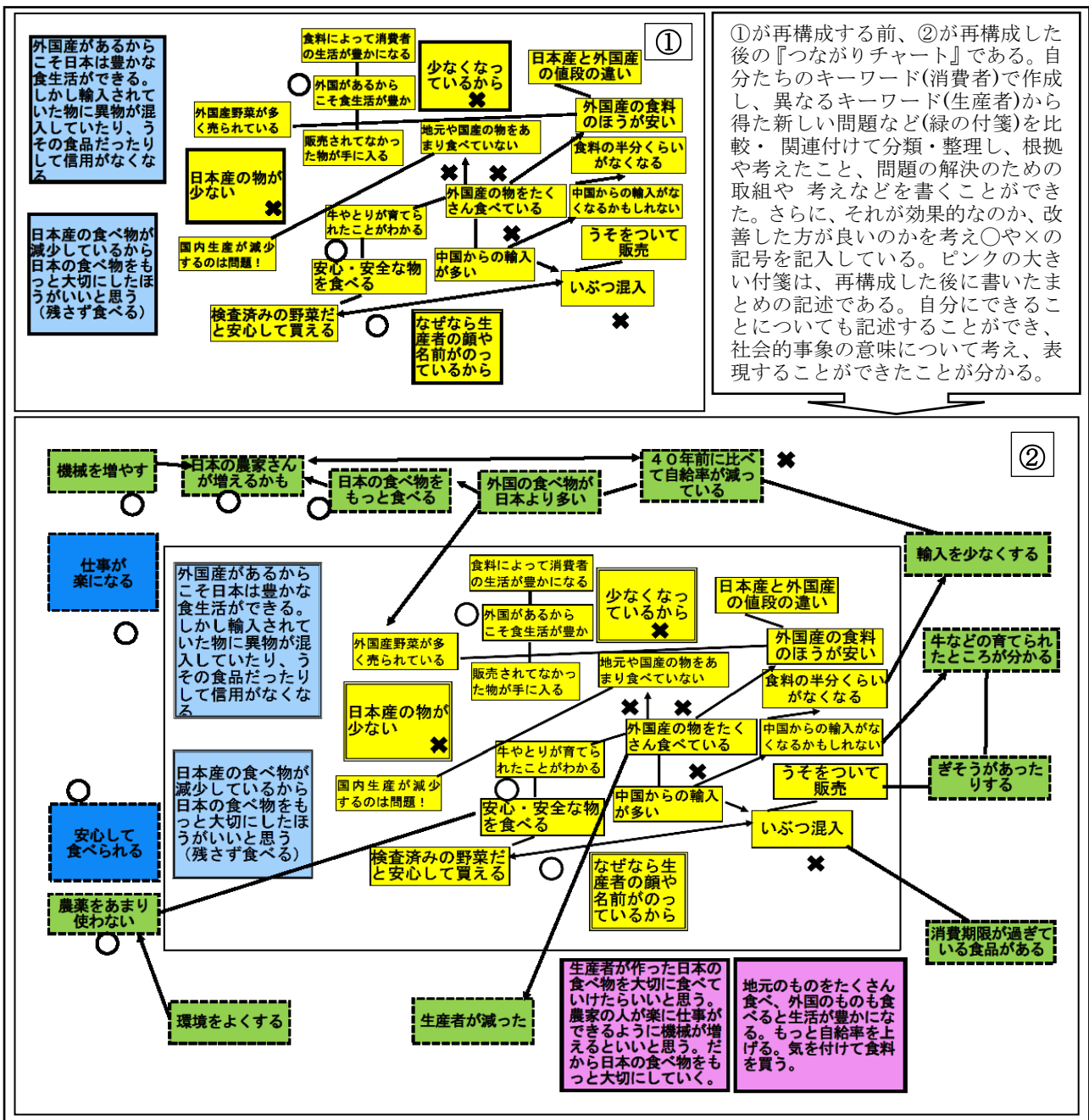


図 4 抽出児 C の所属するグループが作成した『つながりチャート』

(2) 考察

自分とは異なるキーワードの発表を聞いて書いたワークシートの記述から (例:「消費者」が「生産者」の発表を受けて記述したものの「食料の生産量が減っている。もっと生産者を増やせば自給率が上がる」) 交流会によって新たな気付きを得ることができたことが分かる。これは、生産者と消費者の二

表 10 抽出児が書いた解決策と自分にできることの記述

	解決策	自分にできること
抽出児 A	外国のものをたくさん輸入しているので、日本のものをたくさん作って、食べてもらったら良い。	スーパーで買い物するときにはなるべく日本で作られたものを食べようと思いました。
抽出児 B	生産者を増やして、国内生産を増やせば良い。消費者は国内のものをたくさん食べれば良い。	国内のものを買って国内のものを食べれば良い。
抽出児 C	農家の人は日本の食料をいっぱい作って、消費者の人は安全な食料を選んで、食に関心を持った方が良い。	安全な食料を選び、食に関心を持つ。

つのキーワードだったため視点が明確で、交流会で異なる立場の発表を取り入れやすかったためだと思われる。また、聞くときにメモを取ったことや、第5時のめあて「新しい問題を知ろう」を確認したことで、異なる立場の問題や取組について、目的を持って聞くことができたからである。メモを見ながら根拠に基づいて付箋に書くようにしたことで、新たな気付きが整理され、考えることができた。さらに、大事なことやその根拠を書く際にはメモを見たり、交流会の相手の『つながりチャート』をもう一度見たりして、自分で考えることができた。交流会で新しい問題や取組などについて知り、根拠を基に考えることができたことがワークシートや付箋を見ると分かる。

第1回実践で取り組んでいることや、比較・関連付け・総合しながら分類・整理したこと、『つながりルール』の活用が『つながりチャート』を再構成する活動に生かされた。予めワークシートに書いた根拠を参考にしたり、グループで話し合ったりすることで、根拠を基に考えることもでき『つながりチャート』に表現することができた。

児童は、これまでの学習を見直し、それぞれの立場での問題や取組、考え

が明確になり、課題について両方の立場から考えることができた。表11のS1は、「生産者は農薬や外国からの輸入に頼らず、安全な食品を作れるように工夫し、消費者はできるだけ地元の食品は地元で消費できるように外国のものに頼らない」と社会的事象の特色を捉え、自分にできることは「外国の安い食品より、日本の安全な食品を優先して国産のものを買います」と社会的事象の意味について考え、表現することができた。表11は、その他の児童の解決策及び自分にできることの記述である。これらにより、『つながりチャート』を再構成し、「食料生産をどうしていったら良いか」「自分にできることは何か」を考え、表現することができたことが分かる。しかし、「どのような問題があり」については問題を把握していると捉え、解決策や自分にできることを中心に考えたため、問題を記述せずに、まとめた児童もいた。まとめる際に学習課題を確認することやワークシートの工夫が必要である。

実践後に実施した調査の結果は表12の通りである。考えたことを言葉や図で表すことが得意ではない児童が71%であったが、表12のように、実践後には、課題について調べたことや考えたことを付箋や記号を使って『つながりチャート』に表すことができた。さらに、再構成した『つながりチャート』を活用したことによって、「生産者」「消費者」両方の立場から、日本の食料生産には、どんな問題があって、どうしていったら良いかを自分なりに考え、表現することができたことが分かる。

以上のことから、『つながりチャート』の作成と活用を通して、事象の特色を捉え、社会的事象の意味を考え、表現することができたと考える。

表11 その他の児童の「解決策」と「自分にできること」の記述

解決策	
S1	生産者は農薬や外国からの輸入に頼らず、安全な食品を作れるように工夫し、消費者はできるだけ地元の食品は地元で消費できるように外国のものに頼らない。
S2	消費者に安全に食べてもらうために、農薬を使わなかったり、環境も大切にして、安心して食べてもらえるようにすると良い。
S3	生産者が楽に仕事ができるように機械が増えると良いと思います。消費者は生産者が作った日本の食べ物を大切に食べていけたら良い。
自分にできること	
S4	じいちゃんが畑仕事や田んぼをやっているので種まきなどを手伝いたいと思います。
S5	朝ごはんや学校の給食を残さず食べたいです。
S6	外国の安い食品より、日本の安全な食品を優先してできるだけ国産のものを買います。

表12 言葉や図で表すことに関する児童の変容

発表を聞いて『つながりチャート』につなげられた。	『つながりチャート』を見て生産者の工夫や努力を考えられた。	『つながりチャート』を見て、消費者はどうすれば良いか考えられた。	『つながりチャート』を見て、自分にできることを考えられた。
94, 7%	97, 4%	90, 8%	92, 1%

Ⅶ 研究のまとめ

1 成果

- (1) つかむ過程において、課題に対する予想を児童とともにキーワード化することで、何を学ばば良いのかを児童自身がつかむことができ、明確な視点や課題に対する見直しを持って学習することができた。

- (2) 追究する過程において、キーワードという明確な視点に基づいて調べることができた。また、調べたことから食料生産の問題や解決するための取組や考えを、根拠を明らかにしながら付箋に書くことができた。さらに、『つながりルール』に基づいて、付箋に書いた情報を比較・関連付け・総合しながら『つながりチャート』につなげていった。このことにより、自分が調べてきたことや友達が調べてきた情報が、キーワードに基づいて分類・整理することができた。
- (3) 考え・まとめる過程において、交流会を通して異なるキーワードから新たな気付きを得て『つながりチャート』に再構成することで、課題に対して様々な面から社会的事象の特色を捉えることができた。さらに、その特色の価値を判断し、自分のこととして捉えることができ、社会的事象の意味について考えることができた。
- (4) 考え・まとめる過程において『つながりチャート』を再構成することで、課題に対して自分のキーワードのほか異なるキーワードから考えることができた。また、付箋に書かれている言葉のほか、根拠やまとめの記述を参考にすることもでき、社会的事象の意味について考えやすくなるだけでなく、表現する力の育成にもつながった。

2 課題

- (1) つかむ過程において、課題の設定に必要な資料を精選する必要がある。児童の予想や、キーワードを想定して、課題の設定や予想、キーワードを導くために資料の工夫が必要である。
- (2) 追究する過程においては指導計画の工夫が課題である。調べる時間、付箋に書く時間、「つながりチャート」に分類・整理する時間を十分確保するための計画が必要である。

Ⅷ 提言

小学校5年生の実践であったが、他学年や中学校においても『つながりチャート』を作成、活用した授業実践を行う。小学校3、4年では社会的事象について相互の関係をつかみ、6年生では、社会的事象をより広い意味から考え、表現することができるような指導計画の作成と授業実践することで、社会科における思考力、表現力の育成に有効であると考え。また、中学校では、歴史分野で時代を大観しながら特色を捉える授業実践や、地理分野で地域的特色を事象を関連付けながら動的に捉える授業実践を行うことで系統的な資質・能力の育成につながると考える。

<参考文献>

- ・文部科学省 『小学校学習指導要領 社会編』(2008)
- ・群馬県教育委員会 『はばたく群馬の指導プラン』(2012)
- ・群馬県教育委員会 『はばたく群馬の指導プラン 実践の手引き』(2014)
- ・澤井 陽介 著 『澤井陽介の社会科の授業デザイン』東洋館出版(2015)
- ・北 俊夫 向山 行雄 著 『新・社会科授業研究の進め方ハンドブック』明治図書(2014)
- ・藤本 英実 編著 『考え合う授業の追究』東洋館出版(2014)

<担当指導主事>

関 喜史 近藤 照久